



## 目次

生産現場情報	： Z-GISの活用が増えています！	P 1～4
営農支援情報	： 「野菜」の春の管理作業のポイント	P 5
ご 紹 介	： 「共同購入コンバイン取り扱い研修会」を開催しました	P 6
	令和5年産米の食味ランキング発表	P 7
	秋田県は「サキホコレ」「あきたこまち（県南）」が特A獲得！	
	「秋田ノーザンハピネッツ vs 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ」戦で	P 8
	秋田米最上位品種「サキホコレ」が当たる抽選会を開催しました！	
	「JA青年部協議会との経済事業に関する懇談会」を開催	P 9
	「令和5年度園芸畑作物反収向上に向けた検討会」を開催	P 10
お知らせ	： JAグループ令和6年度農作業安全運動	P 11

## Z-GISの活用が増えています！

### 1. Z-GIS（JA全農営農管理システム）とは

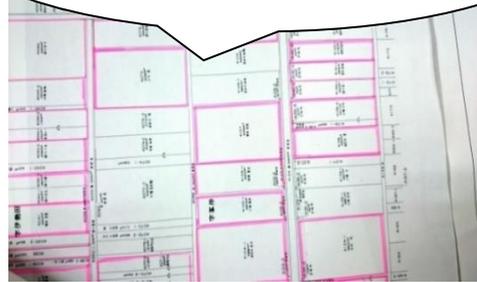
#### (1) 開発の背景

近年、担い手への農地集積が進み営農情報の管理が煩雑化し、担い手の負担となっています。このような圃場管理の課題と電子化による効率化を図るために、全農はクラウド型営農管理システム「Z-GIS」を開発し、2018年4月から運用を開始しました。

地図の作成は、手作業で時間も掛かって大変・・・



地図に情報を書き込むのは、スペースに限りもある・・・  
情報を書き込むのは限界。



＜白地図を利用した手作業事例＞

- ①次年度営農計画の策定（作付作物と圃場選択）
- ②ブロックローテーションとエリア調整
- ③農地管理や作業受委託の圃場確認 ほか



Z-GISで、  
圃場を効率的  
に管理！！

#### (2) システムの特徴

##### ①地図と営農情報を一括で管理

圃場の位置情報（座標データ）とExcelデータを紐づけて管理できます。また、記録した情報を地図に表現することもできます。



## ②クラウドで情報を共有

データをクラウド上に保管することで複数名で共有することができます。また、アプリ版を活用することで事務所と現地圃場の情報共有が可能となります。

### (3) 活用想定場面

#### ①多くの圃場を所有している場合の作業管理

圃場毎の作付計画や作業計画を白地図へ手書きで管理しており、計画の記入や変更に大きな労力がかかっている。

⇒システムを使用することにより、データ上で圃場毎の作業内容を記した地図を手間をかけずに作成・変更でき、労力軽減を図ります。

#### ②作業受託等の管理

J A等でヘリ防除などの作業受託を受けた際、圃場が点在しており、作業対象圃場の特定に時間がかかっている。

⇒システムを使用し「見える化」することにより、圃場を間違えることなく作業を実施でき、効率的な作業管理を行うことができます。

## 2. 県内の普及状況

令和6年2月末現在、秋田県内では99名の個人・法人等の会員に導入いただいております。エクセルをベースにしたシステムであるため、記録した情報が地図上に分かりやすく表示される等の声をいただいております。 ※全国では1,968会員で導入済み。

## 3. 県内の活用事例

### ○(農)大里ファーム (J A かつの管内)

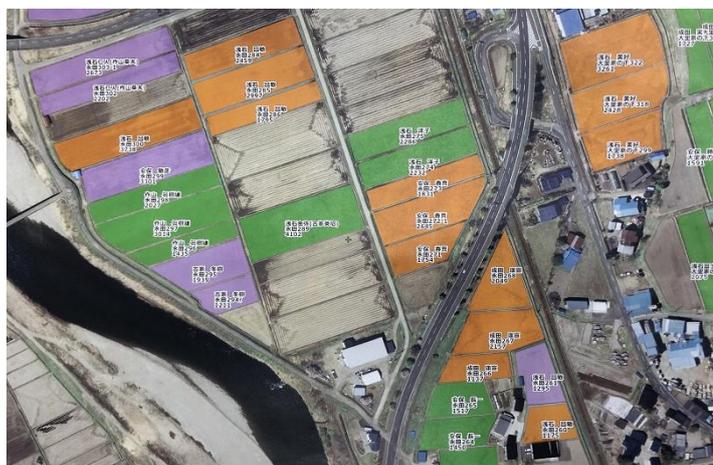
#### 【活用方法】

総面積246ha、総筆数約1,300筆の広大な農地の栽培管理が可能。

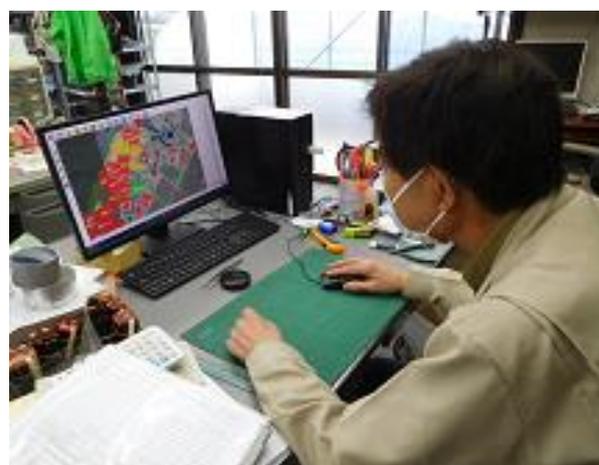
- ① 管理圃場の場所を正しく漏れなく把握！
- ② 営農計画を効率的に作成！作業指示はわかりやすく！
- ③ 作業代金の精算や資金管理を簡単に！

#### 【具体的な活用内容】

- ① 営農計画の策定：大里ファームが八幡平地域にある集落から農地を借り受けし、作付けする圃場や品目などの年間計画をZ-GISを用いて策定します。
- ② 管理圃場マップや作業指示書を各集落に配布します。作業指示書のスケジュールや指示内容に基づいて、大里ファームと各集落が作業を行います。
- ③ 作業の実施内容をZ-GISに記録し、各集落への作業代金や農地賃借料を各集落へ支払い



Z-G I Sでの年間計画の策定



Z-G I Sを操作する浅石理事

【Z-G I Sを使用しての感想】

- ① 作業指示や代金支払いに至るまでZ-G I Sを幅広く活用しています。
- ② 管理圃場の数や場所が正確に把握できるようになったことで、作業計画の策定や各集落への作業指示が容易になり、作業ミスやドリフトのリスクが大幅に減りました。
- ③ E x c e l形式でデータを管理できるため必要な項目を自在に編集できる。
- ④ 利用料金が安い点が魅力。
- ⑤ 今後、大規模農業者はZ-G I Sのような圃場管理ツールが必須になると感じました。

<参考>

1. 料金、申し込み等

①利用料金

会員種別	対象者	登録圃場数	利用料金	クラウドストレージ
一般会員	1.JAの正組合員・准組合員、農業法人、集落営農組織、農業生産者 2.JA、連合会	登録 100圃場まで	2,640円（税込）/年	1GB （登録100圃場ごと）
		登録 2000圃場以上	52,800円（税込）/年	20GB
特別会員	公的機関、JAグループ 以外の企業・団体 （Z-GIS管理部が認めた者）	—	66,000円（税込）/年	20GB

利用料金の請求は年1回とし、毎年4月～翌年3月までの利用料を、当年4月に請求します。

※入会初年度の場合

登録100圃場ごとに年額2,640円（税込）、登録2,000圃場以上は年額定額52,800円（税込）、特別会員は年額定額66,000円（税込）とし、入会月の翌々月～翌年3月までの利用料を、入会月の翌々月に請求します。

## ②ダウンロード方法

PC版は公式ホームページ、スマートフォン・タブレット端末用アプリはApp Store、Google Playからダウンロードしてご利用してください。

公式ホームページURL <https://z-gis.net/99/index.html>

App Store



Google Play



## ③1か月間お試し版

「Z-GIS」は1か月間無料でご使用いただけます。使用許諾契約書に同意いただいたうえで、Z-GIS（PC版）をダウンロード後、公式ホームページ上の「無料で試す」ページに公開中の「1か月間お試しID」をログイン時に入力することで31日間、だれでも1度だけ利用可能です。

無料で試すページのURL <https://z-gis.net/99/get-started/index.html>

## 2. YouTubeで動画公開中

YouTubeに動画を公開しています。

「Z-GIS」と検索いただくと、スタートアップガイド、ユーザーインタビューがすぐに見つかります。

下のQRコードからもアクセス可能です。

スタートアップガイド



ユーザーインタビュー



**圃場情報の「見える化」による円滑な農地の受け渡し！**

これまで勤や経験で管理してきた圃場の特性や位置などの情報を画面上にプロット・色分けすることで、一元管理することが可能。これにより後継者に対し効率的に圃場情報を共有することができます。

Excelで栽培管理  
×  
Z-GISで「見える化」

**先人の「ノウハウ」をスマートに承継！**

クラウド上に栽培管理の履歴や圃場ごとの仕事のやり方、特徴のある栽培技術、圃場の特性などを「農業の記録」として蓄積することで、先人が培った「ノウハウ」を効率的に引き継ぐことができます。

営農支援部 営農支援課 ☎018-880-1011



## 「野菜」の春の管理作業のポイント

今年の冬は積雪が少なかったものの、3月に入ってからは寒暖の差が大きく今後の経過が心配されます。これから野菜栽培が本格的に始まりますが、育苗中の苗の温度管理を徹底し、丈夫な苗づくりに努めてください。

### 【夏ネギ】

○春播き育苗の場合は目標とする収穫期に合わせハウス内でチェーンポット育苗をします。

○定植時の苗の大きさは草丈20cm程度、葉数2～2.5枚、太さ2.5mm程度で根鉢が充分形成されていることが目安です。

○定植は畝幅90～100cm、深さが地表面から15～20cmの植え溝にチェーンポット苗を「ひっぱりくん」で平行に引っ張りながら行います。

また、植え付けにあたってはチェーンポットの根鉢が土で隠れるようにしてください。



チェーンポット苗の定植作業

### 【アスパラガス】

○消雪後、萌芽の20日前を目安に堆肥と基肥を畝間（通路）に散布し、軽く中耕します。施肥量は栽培経過年数に応じ加減してください。

○施肥後、雑草対策として萌芽前（雑草発生前～発生始期）にロックス（除草剤）か、萌芽前～萌芽始期（雑草発生前～雑草4、5葉期）までにセンコル水和剤（除草剤）を散布します。

○4月から5月の始めにかけては晩霜による若茎の被害が心配されます。

凍霜害による被害が発生したら無駄な養分を消費させないため、早期に被害茎を地際から除去してください。



一斉に萌芽したアスパラガス

### 【トマト】

○育苗期に極端な低温に遭うと、低段花房にチャック果、窓あき果などの障害果が発生しますので夜温は10℃以下にならないよう保温してください。また、ハウス内は午後、気温が20℃より下がらないうちに閉めてください。

○定植適期の目標となる苗は、草丈30～35cm、茎の太さ7～8mm、1段花房が1～2花咲いた頃です。

○活着を促進するためにマルチ利用に加えてトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備を行い、地温15℃以上を確保してください。



育苗中のトマト



## 「共同購入コンバイン取り扱い研修会」を開催しました

JA全農あきたは、2月27日、第3弾となる全農共同購入コンバイン「YH448AEJU」の取り扱い研修会を開催し、JA、ヤンマーアグリジャパン株式会社、JA全農あきたの関係者ら70名が参加しました。

この研修会は、購入希望の生産者に特長やPRポイントを説明する知識を身に付けてもらおうと開催しました。また、受注から納品までのリードタイムが必要となることからJA担当者に今期使用される生産者への早期推進、早期受注の取りまとめを依頼しました。



初めに「YH448AEJU」がお披露目され、ヤンマーアグリジャパン株式会社の担当者がコンバインの概要説明や、実機を動かしながら機能の説明を行いました。参加したJA担当者は、説明に熱心に耳を傾けながら、実際に試乗したり、触れたりし性能の確認をしていました。

生産者の需要を取りまとめ一括発注を行うことで、メーカーが製造・流通を効率化して、製造コストを削減でき、積み上げられた台数にて入札を実施することで生産者の購入価格は現行の4条刈50馬力クラスのコンバインと比較し、おおむね15～18%程度の価格引き下げを実現しました。令和6年4月～令和9年9月までの期間で全国の取り扱い台数1350台を計画しています。

こうした取り組みを通じて、全農は引き続き生産者の営農を支援していきます。

令和5年産米の食味ランキング発表  
～秋田県は「サキホコレ」「あきたこまち（県南）」が特A獲得！

一般財団法人日本穀物検定協会から令和5年産米の食味ランキングが発表され、秋田県からは「サキホコレ」と「あきたこまち（県南）」が最高ランクの「特A」に選ばれました。

(一財) 日本穀物検定協会 令和5年産米の食味ランキング

秋田県産サキホコレ 秋田県産あきたこまち

# 祝！「特A」評価取得！！



## あきたこまち

(県南地区)

\*商品进行评估したものではありません

秋田米最上位品種「サキホコレ」は参考品種で出品を含めると3年連続で「特A」を獲得。「あきたこまち」の「特A」獲得は、県南地区の2019年以来4年ぶりとなりました。

※食味ランキングは、産地の品種ごとに区分した全国の144銘柄が対象となり、外観や香り、味や粘りなど6項目で評価されました。

## 「秋田ノーザンハピネッツ vs 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ」戦で 秋田米最上位品種「サキホコレ」が当たる抽選会を開催しました！

J A全農あきたは3月3日、愛知県名古屋市のドルフィンズアリーナでおこなわれたBリーグ「秋田ノーザンハピネッツ vs 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ」の試合会場で、県外の方にサキホコレを広く知ってもらおうと秋田米最上位品種「サキホコレ」などが当たる抽選会を実施しました。

抽選会には、ミスあきたこまちやナマハゲに加え、J Aグループ秋田米新品種サキホコレ研究会佐々木竜孝会長、J A秋田おぼことJ A全農あきたの職員が参加しイベントを盛り上げました。



J A全農あきたは、プロバスケットボール男子Bリーグ1部所属秋田ノーザンハピネッツを2023-24シーズンもオフィシャルパートナーとして応援しています。

## 「J A 青年部協議会との経済事業に関する懇談会」を開催

3月8日、秋田県農業協同組合青年部協議会（以下、青年部協議会）とJ A 秋田中央会、J A 全農あきたの関係者30人が出席し、「J A 経済事業に関する懇談会」が開催されました。

J A 全農あきたの椎川浩県本部長は「記録的な猛暑など、気象変動が大きい一年であった。このような状況下、全農として、農産物の適正価格の実現、生産性向上や生産コスト低減に向けた施策に取り組んでいく」とあいさつしました。

懇談会では、J A 全農あきたの営農支援部・米穀部・園芸畜産部・生産資材部から各部門の取り組み報告と、消費者への理解醸成について意見交換を実施しました。

青年部協議会からは、「環境調和型農業への取り組み」、「あきたこまちRの推進方策」、「2024物流問題への対応」など多岐にわたり質問や意見が出されました。

また、令和5年産米食味ランキングにおいて、「県南地区あきたこまち」と「サキホコレ」が特Aを獲得したことにも触れ、気象変動の激しい中での獲得でこれからの秋田県農業の弾みとなり今後も良食味米の生産に努力していくとの決意を新たにしていました。



秋田県農業協同組合青年部協議会 齊藤拓委員長



J A 全農あきた 椎川浩県本部長

今後も青年部協議会・J A グループが一体となって情報発信をはかり、理解醸成に努めてまいります。



## 令和5年度「園芸畑作物反収向上に向けた検討会」を開催

J A全農あきたは3月21日、秋田県J Aビルで「令和5年度園芸畑作物反収向上に向けた検討会」を開催し、J A営農指導担当者や県本部関係部門担当者など42名が出席しました。

稲作を基幹とする本県農業において、農業者所得の増大・農業生産の拡大をはかるため、秋田県とJ Aグループが連携し複合経営の推進に取り組んでいます。

J A全農あきたは園芸振興の課題とされる反収向上対策として、多収性品種の導入や排水対策などの反収向上メニュー（試験）による実証を9J A53実証圃で実践しました。

3年目となる検討会では、J A全農あきたの加藤政尚技術参与、長澤淳良技術参与を座長として、令和5年度の実証結果についてJ A全農あきたの担当者から品目ごとに説明し、J Aの営農指導員から慣行区と比較した実証区の品質・反収結果を説明しました。そして、その実証内容と課題に対し、座長を中心にJ A間で課題の共有化をすすめ、改良点などの意見・情報交換を実施しました。



バイオスティミュラント資材活用実証



加藤参与

高温対策試験  
生草・稲わら  
被覆栽培実証



長澤参与



今回の検討会をふまえ、令和6年度においても品質・反収向上につながる実証課題に取り組み、J Aの営農指導力を発揮した栽培技術の構築と農業経営体の所得向上を目指します。

営農支援部 営農支援課 ☎018-880-1011

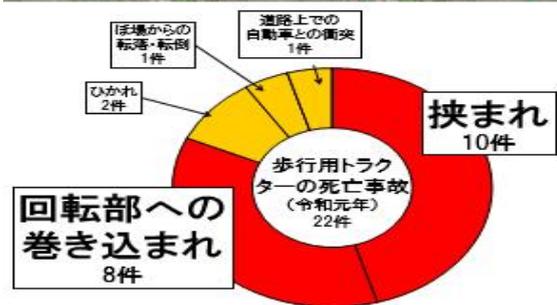


JAグループ令和6年度農作業安全運動

農作業事故防止を目的に、JAグループでは、令和6年度より年間を通じた「農作業安全運動」を実施します。耕起作業や田植作業などで忙しくなる春は、転倒、転落などの農作業事故が起きやすくなります。作業時は、万が一の事故に備えてヘルメットを着用し作業に適した服装で、シートベルトを締めて作業をしましょう。

また、十分な機械の点検整備をおこない、農繁期にはゆとりある作業ができるように心掛けましょう。

歩行用トラクターの事故の特徴と安全装備



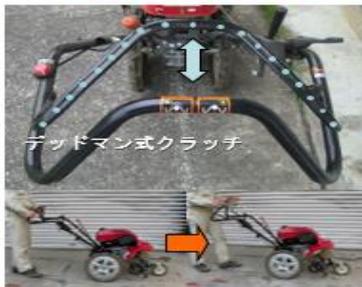
死亡事故原因の約8割が挟まれ・巻き込まれです

可動部への巻き込まれの状況は、「後退時、足を滑らせた」が、機械部への巻き込まれは、「畦畔を乗り越える時や、ぼ場の出入り時、路肩の踏み外しによる転倒」が最も多いことが明らかになっています。

(農林水産省調べ)

安全装備の付いた歩行用トラクターを使いましょう！

挟まれそうになった時や転倒時には、すぐに動力を遮断することが必要です。このため、以下のような安全装備が装着された製品が販売されています。



**デッドマン式クラッチ：**  
レバーをハンドルと一緒に握っている間だけ動力が伝達され、手を離すとレバーが自動的に戻って動力が切れる構造のクラッチです。  
不測の事態に、ハンドルから手を離すことで機械の動きを止めることができます。



**狭圧防止装置：**  
機体と、壁などの間に作業者が挟まれたときに、自動的にエンジンを停止または動力を遮断する装置です。  
レバーが体に触れて押し下げられると、主クラッチが連動して切れ、機械が停止します。



**フロントロータリー：**  
機械本体の前方にロータリーが装着されており、不用意につま先を近づけることによる巻き込まれの恐れがありません。  
また、後進発進時には、通常のものと同様に（写真上）、前方のロータリーが支えとなりハンドルが持ち上がることはありません（写真下）。



国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）  
農業機械研究部門（農機研）

〒331-8537 埼玉県さいたま市北区日進町1丁目4-0番地2  
TEL 048-654-7000 URL <https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/>

Za・あぐりふぉーむ  
Zennoh-akita agriculture+reform

JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふぉーむ  
第50号 令和6年4月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒011-0901秋田市寺内字大小路207の24 018-880-1011